『むくげ通信』300号まで、やってきました

むくげ通信は1971年1月にスタートしました。そして今回めでたく300号を発行することができました。これはひとえに会員の通信にかける熱情によるものです（自画自賛）。もちろん読者あっての通信ですから、読者のみなさんのお支えがあってこそここまで出し続けることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

初期の通信は、事務連絡的なものでした（1971年1月、1～3号）。同年9月の9号からは少し通信らしいものとなり、1974年1月の22号からはほぼ現在の体裁の通信を発行しました。1995年1月の阪神淡路大震災のときは、1月号・3月号の合併号を出しましたが、その他は、年6回の発行を続けてきました。最初のころは先生格の佐久間さんが多くの原稿を書いてくださった時期もありますが、その後は特に原稿集めに苦労するということはだいたいありませんでした。

奇数月の最終日曜日に一日で印刷／発送をするパターンも変わっていません。編集長、メイン原稿執筆者、印刷責任者は基本的に輪番制です。したがってこの任務分担は向こう何年分か決定されています。

発行後の定例会で、合評会と次号編集会議がもたれます。各自が自分の原稿の反省などを述べその後辛辣な（？）批評がなされます。欠席者にはとくに辛辣（？）。また誤字脱字が指摘され、会のホームページに原稿を貼りつける人は、その指摘をまってから改訂版をはりつけることになります。

ところでむくげ通信の特徴のひとつは、正誤表を発表しないことです。その理由は、あまりにも誤字脱字が多いからです。編集会議は、頁の取り合いとなるので（？）すぐに終わります。

●

現在の通信は、A4版、横書き、カラー印刷ですが、この体裁については変遷がありました。1996年11月号（159号）までは縦書きです。1997年1月号（160号）から横書きに変わります。手書きガリ版刷りの時期が長く続きますが、1988年頃からワープロ版が一部に入ってきます。ワープロ導入の最も早かったのはガリ版の名手・信長正義で、最も遅れたのがガリ版の悪手・山根俊郎でした。現在も好評で最も通信の中で多くの方が読まれる「編集後記」だけは手書きを守っています。

A4版に変わったのは2011年1月号（244号）からです。そしてカラー印刷が一部に登場したのが2010年9月号（242号）です。243号（2010年11月）の表紙には志村三津子さんの鮮やかな「わたり蟹」の絵が登場します。

このように通信印刷の歴史を振り返ってみると、市民運動団体印刷技術史ともいえるものがあります。たしか初期の事務連絡的な通信は、青焼き（分かる人には分かる）コピーでした。その後、当時のベ平連神戸の事務所（三宮）にあった手廻し輪転機に変わります。その輪転機が壊れたときにはむくげの会がパニックとなり、新品の輪転機を購入するための強制募金がありました。ボーナス額×Ⓧ＝輪転機代をいう式をつくり、5%か10%の供出がなされました。

47号（1978年3月）までの会の連絡先は当時の飛田自宅（神戸市垂水区）ですが、48号（1978年5月）から神戸学生青年センターに変更されました。これは同年4月に飛田がそこに就職したことにより事務所の一角をお借りすることになり現在に至っています。センターには事務機器メーカーがよく出入りしていますが、その口車にのせられていつも最新式の印刷機が入り、通信印刷もその機械のお世話になっています。現在の印刷機は原稿を読み込むと帳合、カラー印刷、ホッチキス止めまで自動でしてくれます。それ以前堀内稔の独壇場であった帳合作業も今はなく、印刷発送日には宛名ラベルの封筒貼りが終わると印刷担当以外は手持ぶさたとなります。

●

さて、300号を記念してみなさまに「会告」をいたします。

1）6月13日（土）に開催予定であった記念パーティはコロナウイルスの関係で延期します。どうせ、飲めや歌えの宴会になることが目にみえていますので延期やむなしです。いっそ来年1月のむくげの会50周年にあわせていっしょにパーティをしようという話がもちあがっています。また連絡いたします。

2）今号に「むくげ通信総目次」を付録（A4、60頁、無料）としておつけします。すでに会のホームページhttp://ksyc.jp/mukuge/で公表していたものもですが読みやすく整理しました。

3）そして、全通信をPDFファイルにてUSBにコピーしました。1000円（送料とも）で販売します。

4）そして、そして、合本を一挙放出します。送料だけ負担をお願いします。1971、72、73、74、75、77、1987年以外は在庫があります。遠慮なくご連絡ください。

2020年5月31日
むくげの会
堀内稔、飛田雄一、山根俊郎、信長正義、深田晃二、大和泰彦、足立龍枝、近藤富男、川那辺康一
（この順番はむくげの会の出席簿的なもので、入会、再入会の日が基準で、会費入金記録簿、編集長・メインレポートなど、すべてこの順番で行われています。）